ハンド県一般選手権

ハンドボールの第56回県一般選手権大会最終日は16日、ANAアリーナ浦添で男女1部リーグ最終戦などが行われた。2勝同士の対戦で優勝決定戦となった男子は興南BICが丸松建設を29―27で下し、6連覇を達成。女子は15日までに2勝したレキオクラブが頂点に立った。

男子は3位のHC　FURIMUNを加えた上位3チーム、女子は優勝したレキオクと2位の宜野湾ガス、3位の那覇西クが宮崎県で5月13、14日に行われる九州大会に出場する。

男子2部はエレメンツ具志川、マスターズはエレメンツマスターズ、マスターズ50sは沖縄教員が制した。女子2部はMLN沖縄が優勝した。

【男子】
▽1部リーグ
興南BIC 29(11―12 18―15)27 丸松建設
HC　FURIMUN 28(15―12 13―11)23 那覇西ク
▽同最終成績　①興南BIC3勝②丸松建設2勝1敗③HC　FURIMUN1勝2敗④那覇西ク3敗
▽2部決勝
エレメンツ具志川 31(18―11 13―13)24 てだこHC
▽マスターズ決勝
エレメンツマスターズ 20(10―6 10―8)14 青　空
▽50s決勝
沖縄教員 15(7―3 8―3)6 チーム46

【女子】
▽1部リーグ
宜野湾ガス 26(13―9 13―11)20 那覇西ク
▽同最終成績　①レキオク2勝②宜野湾ガス1勝1敗③那覇西ク2敗
▽2部決勝
MLN沖縄 22(11―9 11―9)18 名　桜　大

興南BIC 貫禄の6連覇

全国見据え守備強化

ハイライト

興南BICは全国大会を見据え、新たに取り組んだ守りのシステムで丸松建設の攻撃を徐々に遮断することに成功した。前半にリードを奪われながらも後半底力を発揮。パスカットから速攻で得点を重ね、29―27で貫禄の6連覇を飾った。

6人が横一線となるディフェンスを採ってきたが、190㌢の長身で中央の壁となる棚原良と上原丈侑が出場できなかったこともあり、今大会は一人前に出す「1―5」を試した。

トップディフェンスと呼ばれる前の一人を務めたのは3月に琉球コラソンを引退したばかりの森田啓仁。先手を取ってパスコースを限定して相手を外側に追い出し、味方と連動してボールを奪い速攻につなげた。

森田は「相手のリズムを崩すことを狙った。後半にばててしまいきつかったが、楽しかった」と述べ、重圧があったコラソン時代とは異なるプレーの楽しさをかみしめた。宮城護主将は「守備の引き出しが一つ増えた。しっかり九州を突破して8月の全国大会で良い結果を残したい」と語った。（溝井洋輔）

男子6連覇の興南BIC

男子1部リーグ　興南BIC―丸松建設　後半、興南BICの東弘起が22点目のシュートを決める＝ANAアリーナ浦添（金城健太撮影）

レキオ 逆転で頂点

後半 速攻から得点

女子は決勝リーグを2連勝したレキオクラブが頂点に立った。15日に行われた宜野湾ガスとの試合は、前半で8―13と5点をリードされながら、後半に逆転に成功し24―23と競り勝った。

知念桜雪、宮里真帆、山田若菜の3人が新加入してチーム力が上がり、後半の逆転は走り込んだ成果が出た。西銘紗貴主将は「後半は連係したディフェンスから相手のパスをカットして速攻から得点を重ねることができた。九州大会は絶対に制覇して沖縄に帰ってくる」と決意を示した。

女子優勝のレキオクラブ（提供）

© 2023 Okinawa Times Inc.